

INFORMATION



《速報》

■印西市池ノ下遺跡出土の墨書土器



フィールドブック No.24 で紹介した印西市に位置する池ノ下遺跡では、その後整理作業が行われ、長文の墨書が記された土器が発見されました。文字は土師器の小型甕に横位に記され、欠けている部分もありましたが、「下総国殖生郡酢取郷車持□(部か)……」改行し「□(延か) 暦二年正月十四……」と読めます。つまり、この墨書土器には国・郡・郷名、次に車持という苗字、そして延暦二(783)年正月十四日という日付が記されていることになります。

こうした墨書は延命のため、閻魔様の使者にご馳走を捧げるおまじないとして書かれたと考えられています。しかし、注目すべきことは一般的に印旛郡に属していたと考えられている印西市から「殖生郡酢取郷」と書かれた資料が出土したことです。

これまでの認識を見直さなければいけないのか、あるいは人が移動してきたのか、この資料が何を物語っているのかは今後の調査・研究の進展によりますが、周辺の歴史を知る上で重要な発見となったことは間違いありません。

《発掘中の遺跡》

がんばっています!

3月の予定

- 〈成田市〉野毛平東方遺跡(奈良・平安時代)  
船形手黒遺跡(古墳～奈良・平安時代)  
台方宮代遺跡(奈良・平安時代)

- 〈佐倉市〉上志津大堀遺跡(縄文時代)
- 〈印旛村〉鎌苧遺跡(縄文時代)

《室内作業》

こつちもやっています!

〈本部統合事務所〉

- 佐倉市鎗木町 198-3 TEL. 043-484-0133
- 笹目沢 I・II 遺跡(四街道市 縄文時代～奈良・平安時代)
- 木戸場遺跡(四街道市 旧石器時代)
- 前原 No.2 遺跡(四街道市 縄文時代～奈良・平安時代)
- 野毛平上之内遺跡(成田市 古墳～奈良・平安時代)

〈佐倉南統合調査室〉

- 佐倉市岩富 528-1 TEL. 043-498-0765
- 宮内井戸作遺跡(佐倉市 縄文時代・中世)
- 内田端山越遺跡(佐倉市 古墳時代・奈良・平安時代)

《ご案内》

■企画展「印旛喰ッキングー食の発掘史ー」  
好評開催中です

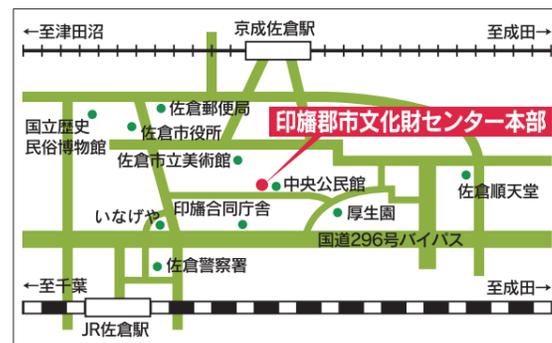
当センター考古資料展示室にて、平成20年6月30日(月)まで企画展を開催しています。

今回は、旧石器時代から江戸時代までの調理方法・調理器具の変化を、印旛郡市内から出土した土器や陶器などの遺物を中心に、「煮る・蒸す」「搗る・捏ねる」「食べる」「飲む」「調味料」の5つのテーマでわかりやすく展示しています。ぜひご来場ください。土日祝祭日休館。入場無料。



《おしらせ》

※左記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



平成20年3月17日 千葉県佐倉市鎗木町198-3 TEL. 043-484-0126 http://www.inba.or.jp



いんざい し ば ば い せ き  
印西市馬場遺跡  
(第5地点)



大型土坑と出土遺物

馬場遺跡(第5地点)は印西市小林字馬場に所在し、JR小林駅から西に約1.5km離れた標高28m～30mの台地上に立地します。遺跡の北側には利根川に注ぐ将監川が流れています。

今回の調査は市道建設に伴って行われ、縄文時代の竪穴住居跡や土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、中世～近世の道路状遺構などを検出しました。調査の結果、この台地上には縄文時代後期から晩期にかけて集落が営まれていたことがあきらかになりました。今回は、その集落から見つかった直径約2.2m、深さ約5.3mの大型土坑について、紹介したいと思います。

大型土坑は穴の入口付近(開口部)がやや広がっていますが、ほぼ円筒状に底面まで垂直に近い状態で掘られていました。内部からはおびただしい量の縄文土器片、ヤマトシジミやハマグリなどの貝類、クジラやイノシシ、シカなどの獣骨類が出土しました。遺構確認面から2m～3mの深さのところからは、注口土器や土版、シカの頭骨がほぼ完全な形でみつかりました。遺物の出土状況から、この土坑は縄文時代晩期につくられたものと考えられます。この土坑に似たものが、佐倉市の国指定史跡井野長割遺跡で見つっていますが、この土坑のような深さのものは他に類例がありません。

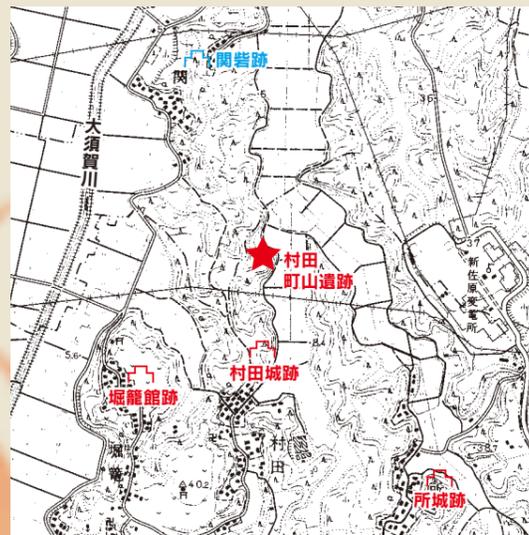
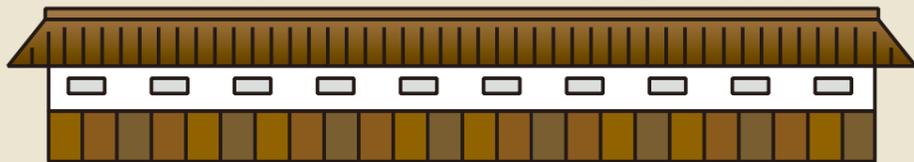
なぜ縄文時代の人々はこのような深い土坑を掘り、大量の土器や獣骨類を捨てたのでしょうか。今後、縄文時代後・晩期集落における大型土坑の役割について、考えていく必要があると思います。





成田市

# むらた まち やま い せき 村田町山遺跡



青字：国分氏  
赤字：大須賀氏

S = 1/30000



航空写真（北東から）



出土遺物

今回ご紹介いたします村田町山遺跡は、成田市の北東部、佐原市との境界に位置する成田市村田に所在し、大須賀川の東岸400m、標高30mの南から北へ伸びる半島状の台地中央部に立地しています。

調査の結果、この遺跡は中世、戦国時代の城跡であることがわかりました。中世の城郭は、土塁や水のない空堀、礎石のない掘立柱建物で構成され、外観の壮麗さや住みやすさではなく、攻撃・防御の合理性を重視した、戦闘のための「土の城」でした。

遺跡の台地頂上部には、主郭部と考えられる上段①・腰曲輪②と考えられる下段の2段の平場が築かれ、その間に僅かながら土塁③が築かれていたことが確認できます。また、郭の周囲には帯曲輪と呼ばれる平場が巡っており、北東の先端部には物見台⑤が残っていました。下段の平場からは「虎口」⑥と呼ばれる直角に曲がる通路を配した防御施設が設けられており、堅堀と推測される溝状遺構⑦につながっています。反対側には土橋⑧が配置され、そこから南に向かって複数の段曲輪⑨と呼ばれる階段状の平場が伸び、西には曲輪が巡っている状況が確認されました。遺物はあまり出土していませんが、火縄銃の弾丸や、瓦を転用した砥石、16世紀後半の瀬戸・美濃系陶器などが出土しています。

遺跡の所在する地域は当時、北の国分氏と南の大須賀氏という2人の武将の領土の境界に位置していました。この一帯は利根川の支流である大須賀川に沿って国分氏の関砦跡や、県下でも屈指の空堀や土塁を持つ村田城跡のほか、1km南東の所城跡、堀籠館跡など、大須賀氏の城館が集中しています。その形状と位置から考えて、本遺跡は村田城の支城である可能性が高いと考えられています。

国分氏と大須賀氏は共に千葉六党と呼ばれる、本佐倉城（印旛郡酒々井町）を本拠とする千葉氏の有力な家臣です。両者が領土を争ったという史実は残されておりませんので、これらの遺跡は外敵に備えて侵入されやすい地点を防御していたものと考えられます。いずれにしても、自らの領土を堅固に防御する必要があったという点に、戦国時代という乱世の緊張した状況を読み取ることができるのではないのでしょうか。



土塁



土塁断面